

# 登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会

## 第4回まちづくり部会 会議次第

日時 令和4年7月21日（木）13時30分

場所 登別市婦人センター講堂（2F）

### 1. 開会

### 2. 資料説明

- (1) 第2回及び第3回における意見交換のまとめ
- (2) 教育環境部会の議論の動向について

### 3. 協議事項

- (1) まちづくりの側面から見た登別中学校の今後のあり方と統合の是非について

### 4. その他

### 5. 閉会

# 第2回及び第3回における 意見交換のまとめ

令和4年7月21日  
登別市教育委員会

# 第2回（5/19開催）における 意見交換のまとめ

## 第2回（5/19開催）における意見交換のまとめ

- 道内の他の温泉地では学校が存続している。中学校が無くなれば、観光産業の労働力確保の競争で不利になる。
- 登別中学校と地域との関わりの多さに驚いている。学校と観光客が直接関わる機会が作ればいいと思う。
- 小規模特認校等の手法で、存続の方向で考えることはできないだろうか。

## 第2回（5/19開催）における意見交換のまとめ

- 中学校が無くなることで、観光産業の人材確保が難しくなるのではと心配している。
- 一方で、親の立場としては、現在の状況が教育環境として良いとは思わない。
- 一定の規模を確保しつつ、スクールバス等で通学しやすい学校が望ましい。
- それが観光産業の人材確保の際にもセールスポイントになるのではないか。

## 第2回（5/19開催）における意見交換のまとめ

- 学校を存続させるために、まだまだできることがあるのではないか。
- 例えば小規模特認校にすることで、虎杖浜地区から子どもを呼び込めないか。
- 情報収集を行い、学校を存続させるための方策を取り入れていってはどうか。
- 登別地区は雇用の場も充実しており、統合ありきではなく、存続方法を検討すべき。

## 第2回（5/19開催）における意見交換のまとめ

- 人口増加のためにできることがまだあるのではないか。

- (例)
- ・ 子育て世代を対象にマイホーム減税
  - ・ 市営住宅を有効活用
  - ・ ウクライナ難民を受け入れ
  - ・ 民間企業が登別地区居住者に住居手当をプラス支給

- 登別中学校の特色ある取組を統合後に引き継いでいけるのかという観点でも検討が必要。

# 第3回（6/23開催）における 意見交換のまとめ



## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 基幹産業である観光の雇用を支えるということと、中学校を統合するという事は両立しないのではないか。
- 学校が遠くなれば親の送迎の手間が増え、労働に割く時間が少なくなる。ひいては労働力の確保が難しくなる。
- 子どもの数が減るという見通しの中で動くのではなく、増やす方策を考えるべき。

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 子どもたちが置かれている環境を見ても、統合が必要な状況にあるのは明らか。
- 保護者の立場としては、もっと早く統合の議論があっても良かったと思っている。
- 中学校で行われてきた地域への愛着を深める取組（熊舞や鬼踊りなど）は重要。
- そうした取組が観光産業の人材確保に寄与。登別地区は人材供給地として可能性あり。

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 統合により幌別地区と登別地区の心理的距離が近くなり、雇用先が広がるのではないか。
- まちづくりにとっての学校ではなく、教育環境としてどうあるべきなのかを考えるべき。
- 子どもには、早い段階で少しでも大きい学校で様々な経験を積ませるべき。
- そうすることで優秀な人材が育ち、将来のまちづくりにもプラスになる。

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 登別小学校は未来の存続のためにも、しっかりと守っていくべき。
- 小学校の有無は定住地の選択に影響を与えるが、中学校の有無との関係性は強くない。
- 中学校の有無が居住地の選択に影響を与えることはないのではないか。
- これを機会に、若い世代が居住地を選ぶ基準をしっかりと議論し、まちづくりに繋げるべき。

# 教育環境部会の 議論の動向について

令和4年7月21日  
登別市教育委員会

# 教育環境部会の目的

- 子どもたちの教育環境という側面から、登別中学校の今後のあり方を議論。
- 仮に統合するとした場合の環境整備面の条件を議論。
- 上記を踏まえ、教育環境面から見た統合の是非について方向性を議論。

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第2回教育環境部会（R4.5.25開催）

- 現鷺別中学校教諭を招き、室蘭市立中学校在職時の学校統合の経験に関し情報収集。

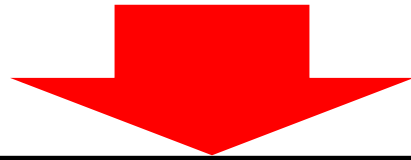


- ⇒ 行事等が盛り上がり学級間の競争が生まれた。
- ⇒ 学習面でも切磋琢磨する環境が生まれた。
- ⇒ 部活動の選択肢が増加。
- ⇒ クラス替えが生じ人間関係の幅が広く。
- ⇒ 教員数の増加でグループ学習等が可能に。
- ⇒ 授業以外の時間も共に過ごすなど丁寧にケア。

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第3回教育環境部会（R4.6.1開催）

- 旧温泉小学校及び中学校の同窓生を招き、小規模校や統合時の経験に関し情報収集。



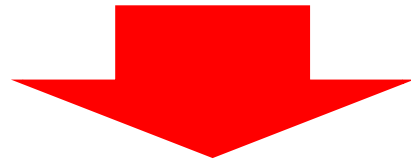
- ⇒ 統合により生徒間の競争などで学習意欲は上がった。
- ⇒ 旧温中時代は生徒先生の距離が近く学習意欲上がらず。
- ⇒ 集団で友達を作る経験をして高校で生かされた。
- ⇒ 女子特有の人間関係を経験できたのは良かった。
- ⇒ 集団内で人間関係を作る経験を持つことができた。
- ⇒ 高校入学時の戸惑いが大きかった（温中卒業生）。



# 教育環境部会：これまでの議論

## 第4回教育環境部会（R4.6.23）

- 第2回、第3回の結果を踏まえて、登別中学校の今後のあり方や統合の是非について議論。

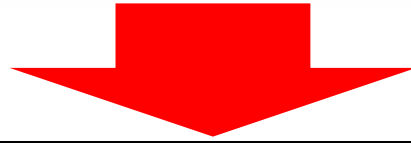


⇒ 中学校が無くなれば、登別地区に住む人がより少なくなってしまうのではないか。

⇒ 町への影響を考えても、現在は決めかねているというのが正直な感想。

⇒ いつかは統合せざるを得ないと思っていた。

# 第4回における部会員による意見



- ⇒ これからの子どもたちのことを考えれば、統合の方向性で進んでいくのがよいのではないか。
- ⇒ 統合により人間性を培う面でも必ず良い影響がある。
- ⇒ 子どもたちのケアを行い、統合の方向性に進むべき。
- ⇒ まちづくりの面で不安はあるだろうが、統合の方向性で進むべき。
- ⇒ 子どもを増やすといっても、人口増加は一朝一夕に効果が上がるものではない。